

2020年6月夏 超覚寺報 第42号

【ハーフ屈たより】



※ 新型コロナウイルスの
感染拡大がまだ終息してい
ません。大丈夫ですか?
悪い影響はありませんか?
超覚寺でも各種行事を予
定しておりますが、広島市
内の感染状況次第では中止
する場合があります。
お出かけ前に、お寺まで
ご確認ください。

- ◎ テンプルモーニング:毎月第1土曜日7時30分~8時30分
朝のお寺でお掃除するだけの、のんびりした時間を持ちます
境内には三密にはなりませんが、感染に配慮して開催します。

- ◎ 下記の催しは、新型コロナウイルスが終息するまで休会します。
当事者の方々と僧侶(超覚寺住職)との分かちあいの集いです。
- ◎ 夫:毎月第1土曜日・自死:毎月最終土曜日
- ◎ にここにカフェ:毎月第1月曜日 13時30分~15時
「いきいきポイント」対象の高齢者向けのお楽しみ会です。
- ◎ カフェデモンク
仏教だけでなく他宗教の臨床宗教師も参加する茶話会です。

△夫:毎月第1土曜日・自死:毎月最終土曜日

△にここにカフェ:毎月第1月曜日 13時30分~15時

△「いきいきポイント」対象の高齢者向けのお楽しみ会です。

△ カフェデモンク

△ 仏教だけでなく他宗教の臨床宗教師も参加する茶話会です。

△ 寺院護持費(墓地管理費)について

例年、原爆の日やお盆の時期にお納めいただく方が多く、
玄関が混み合います。お振込もどうぞご利用ください。
【ゆうちょ銀行 15190-55770601】

△ 他金融機関からゆうちょ銀行へ振り込まれる際は、

△ 次のように入力してください。

【店名】五一八(読み ゴイチハチ)

【店番】518(普通預金)5577060

△ 報告・連絡・“僧”談

今年のカープ団体観戦は、良い席が当たったにも関わらず、試合
が開催されないと非常に常事態で…。まさに「人はパンのみにて生
くるものに非ず」、カープがどれほど生活の支柱であつたかに気づ
かされました。でも有観客試合になつたら、まだチケットを申し込み
ます。当たつたら住職のツイッターやインスタグラムにて報告します。
発行人:超覚寺住職 釈隆恩(和田隆彦) (* -)人 ～合掌

△ 浄土真宗(真宗大谷派・東本願寺)



林鷲山 憶西院 超覚寺

RIN-O-ZAN OKU-ZEI-IN CHO-KAKU-JI
[since 14th century 2162, Western calendar 1619, Genwa 5]
〒730-0013 Hiroshima Prefecture Higashi Ward Kōtokuji 5-2
Tel : 082-221-1234 ; 090-9999-3113
Mail : wada@namuamidabutsu.com
HP : http://www.namuamidabutsu.com
http://mytera.jp/tera/48chokakuji

超覚寺 夏の法要 のお知らせ

慈光のもと、平素は様々にお世話になっておりまこと、ありがとうございます。
さて、下記の通り法要・法座を勤修いたしますので、
ご参詣くださいますよう、ご案内申し上げます。<(_ _)>

◎ 原爆の日の法要

8月6日(木) 8時15分 広島原爆1分間黙祷

原爆死没者追弔会(住職のみ)

8月7日(日) 11時02分 長崎原爆1分間黙祷

両日とも本堂は開放しておりますので、どうぞご自由にお参りください。
新型コロナウイルスが終息しておれば、8/6には広島市内の各宗派僧侶
が平和公園の原爆供養塔(引き取り手のない御遺骨を納めている)の
前で法要をします。

◎ 孟蘭盆会(戦争死没者追弔会)の法要

8月14~16日(金・土・日) 10時~10時30分

ご先祖さまを敬い、わが身の四苦八苦の問題を見つめ直すご縁にしましょう。

※ お盆・初盆の誦経は、希望日時が重なりやすいので早めにご連絡ください。

※ お盆期間中、本堂を開放しております。どうぞ阿弥陀如来にお参りください。

※ 広島県南部の伝統供物【盆燈籠】を墓石の周りに立てられますが、超覚寺
では墓参札・墓花・お線香のみ販売しておりますので、盆燈籠は他のお店で
購入、ご持参ください。

※ 境内の駐車場は7台まで、満車の際は近所のペーキングをご利用ください。
※ 8/18以降に業者さんが墓地を清掃し、墓参札・墓花・盆燈籠を片付けます。

超覚寺オリジナル墓参札 →



◎ 秋季彼岸会(永代経)法要

9月19日(土) 13時~

勤行:住職

13時30分~15時30分(茶菓子休憩有)

法話:瓜生崇師(滋賀県東近江市玄照寺)

瓜生先生は、昨年の超覚寺400周年記念法要でもお話を頂きました。
それを機縁に今後毎年お越し頂けることになりました。

◎ 第8回 節談説教布教大会in広島

10月6日(火) 13時~16時 広島西別院(中区寺町)

新型コロナウイルスが終息しておれば、今年も昨年に続き、寺町の
本願寺広島別院で開催されます。毎回、あふれんばかりのご門徒方
の受け念仏に本堂が包まれる様は有難いものです。入場料は不要
ですが、ご懇意は拝受いたします。今回は住職は裏方担当で登壇は
しませんが、いろいろなスタイルの節談説教を拝聴できるまたとない
機会ですので、乞うご期待!

◎ 2020年 報恩講法要

11月7日(土) 10時~15時30分(昼食あり)

法話:小山興圓師(愛知県安城市本證寺)

勤行:住職・市内住職出仕

住職が学んだ「大谷専修学院」という僧侶養成所の同期になります
す。昨年に引き続き親鸞聖人のご生涯を絵解きでお話を頂く予定です。

◎ 第3回 納涼落語会 10月中?(法要はありません)

新型コロナウイルスが終息しておれば、今年も広島県民お馴染み
のマルチタレント中島尚樹さん主催の落語会を招致いたします。
昨年は井上恵津子さんや某男性アナウンサーも登壇頂きました。

詳細は次号の「ハ丁堀だより」にてお知らせします。

☆【志村けんさんを偲んで】

3月29日に志村けんさんが亡くなつた。その後に放送された追悼番組を見て、本当に多くの人に、特に同業者に広く愛されていたんだと知つた。私も「8時だヨ! 全員集合」世代なので、ただただ残念だ。指定感染症である新型コロナウイルス感染症で亡くなつた人は、家族すら近づけず御葬式も無いままで、すぐに納体袋に密封され火葬される。志村けんさんの実のお兄さまは、お見舞いに行くことも看取ることも、火葬に立ち合うことすらも許されず、茶毘に付された実弟の遺骨を自宅で受け取るだけだった。そういう決まりがあるのは、あまりに切なくて他人事のようにには到底思えない。

遺体を確認できず死別の実感が無いまま家族や親しい人を弔つた状態を「**さよならのない別れ**」と言うが、例えば広島の原爆や東日本大震災もそう、志村けんさんとの死別もそこに含まれるだろう。大切な人を亡くした悲歎から回復するには、その悲しみに向きあい、涙するという場が大切で、その最たる儀式が御葬式である。しかし様々な事情でそれができない場合、喪失感は癒されないまま複雑なものになり、その人の身心を長い間苦しめることになる。

「家族葬」や「直葬」といった御葬式の簡略化・省略化は、ここ数年ですっかり定着したが、新型コロナウイルスの影響は、御葬式を勤めなからり参列者を極力減らしたりという流れをも加速させていく。もちろん感染症の蔓延を防ぐために必要なことだが、しかし、日本中・世界中で「**さよならのない別れ**」があふれ、将来にわたって複雑な喪失感に苛まれる人が多く出てしまうのなら、何ともやるせない。

もし、あなたの大切な人が亡くなつて、しかし充分にお弔いができるなかつたとしたら、いつでもどこでも構わないのです。ぜひその人を想つて手を合わせてほしい。亡き人を想つて真摯に手を合わせ、哀悼や感謝の意を手向ける行為は、あなたの身心を守ってくれるだろう。

◇【新型コロナウイルス】

新型コロナウイルスの感染拡大により、超覚寺でも3月の「春季彼岸会」は、住職独りでお勤めいたしました。住職がご自宅にお参りする月命日やご法事等も、皆さまのご要望には柔軟に対応しておりますので、遠慮なくお申し出ください。法要時はもちろん、手指を消毒しマスクを着用しております。

毎年大地震や暴風雨などの災害が続けて起り、今回の新型コロナウイルスもそう、我らは常に何らかの災難に苛まれてきました。それらは自然脅威によるものだけではなく、人災で被害が拡大したのもありました。

江戸時代の良寛禅師は、新潟県三条市で地震に襲われた際、良寛さん自身は被災しなかったものの、親友の子どもが亡くなり、そのお見舞い状に下記の一文を綴りました。

「災難にあう時節には災難にあうがよく候。死ぬる時節には死ぬがよく候。これは災難をのがる妙法にて候。」まるで突き放すような冷たい表現ですが、良寛さんが現実を真つ直ぐに見据えて生きてこられたんだなあと、いうことが伝わってきます。このようない避けられない現実をそのまま受け入れて、そこには執着することなく、今与えられた環境の中で出来ることを精一杯したらよいのだ、と良寛さんは仰っているのです。そこにはあきらめではなく、力強さというものを感じます。「お前自身のその執着こそが、苦しみの本当の原因なのだよ」と、お教えくださっているのでしょうか。

ただ、私からはこの執着が無くなりません。良寛さんが仰るような生き方が出来れば楽になれるだろうと分かっていても、避けられない現実を受け入れられない、それを受け入れなくて結局、執着して苦しんでしまいます。「分かっちゃいけど止められない」執着を、実は本心から嫌つていないと、いう矛盾した心のありようから、私自身の執着の強さといいうものに改めて気づかされるのです。



去る5月23日に、お花の業界団体から、境内の全てのお墓に花束一対を御寄付いただきました。「新型コロナウイルス感染対策の営業自粛で大量のお花を処分せざるを得ない状況…、それなら仏さまにお供えさせてほしい」との有難くも嬉しいお申し出でした。

◇【新型コロナウイルス②】

某日某新聞の投稿欄にて。「ある晩、突然熱が出た。38.7度の発熱と悪寒、関節の痛み。そんな状態でベッドの中でのたうち回りながら感じたのは、恐怖と深い後悔だった。在宅ワークを続けていたが、ストレスと寂しさに耐えかねて夜は友人と楽しんだり、スポーツをしたり。そして、全く眠れなかつたあの夜。重症化したらという不安、両親に会えるだろうかという恐怖心。『自分は健康だから大丈夫』と過信し取った行動への後悔に襲われた。」今回のウイルスとの出遭いは、こんな感じに正面からではなく、まさに背後から突然来るのがだらう。中国武漢での情報時は1月末に届いていたが、遠い国で発生した病気という認識で関心は低く、3ヶ月後、このように世界中に広がるとは思わなかつた。

浄土真宗第8代の蓮如上人は、門弟に多くの御文を書かれ、お念仏の御教えを説かれたが、その中に「われや先人や先今日とも知らず明日とも知らず」とある。決して他人ごとではなく、いつ自分が陽性になり感染させる側に立つか全く分からないと受け止められよう。

蓮如上人はまた「当時このごろ、ことのほかに瘦瘠としてひと死去す。これさらに瘦瘠によりてはじめて死するにはあらず。生まれはじめしよりしてさだまれる定業なり。さのみふかくおどろくまじきことなり」とも別の御文で記される。その頃とても多くの人々が伝染病に罹って亡くなっているが、「伝染病に罹ったから初めて死ぬことになつたのではなく、生まれた時からいはずれ死ぬなどということは定まつたのだ、さほど驚くべきことではない」と。

達観したように思える言葉だが、他のお手紙には「法然上人は、お淨土に生まれたいと願う人は病を得て偏にこれを樂しむと仰ったが、私は必ずしも病を喜ぶ心が起こりません。恥ずべきことです。」と述べた後、「老少不定、つまり順不同を思うにつけてお勤めするのには必要不変ですか。」

→ もって死ぬのか分かりません。ですから、一日も片時でも急いで阿弥陀如来から信心を頂戴し、極楽浄土に往きて、仏として生まれることを確かなものにし、その後は人間の有り様に任せて過ごしていくことが肝要です。」と記されている。

医療と宗教との壁を取り払い、臨床宗教師という新しい職種の誕生に奔走した宮城県医師の岡部健先生が、自らガン患者になつた時、「いざ死んでいくに当たり、どのように『闇』の方に降りていけばいいのか、その道しるべが無いことを愕然とした。数十年前までは、死を迎える価値観があつたが、今は衰退して、生き続けるだけの価値觀になってしまった。」と述べている。

その道するべこそが宗教の役目であり、仏教・浄土真宗の責務である。阿弥陀如来の「必ず救うぞ、我に任せよ。」との喚び声をそのままに素直に「はい、ありがとうございます。お願いいたします。」と受け止め、報謝のお念仏を申す。このことを「ご信心を頂く」といい、闇ではなく「お淨土」に往きて、仏として生まれさせて頂くのである。

(「淨満寺だより」2020年5月より加筆転載)

☆今後の法要のありかた

三密を避けるため、会社の仕事や学校の授業がオンラインで行われるようになって、早や数ヶ月が経ちました。御葬式の様子を遠方の親類に生配信できる設備を導入した葬儀会館や、本堂での法事法要を配信しているお寺もあります。この流れが恒久的に定着するのか、それはまだ分かりませんが、実際に会う程でも無くてオンラインで済ますような場合は増えしていくでしょうね。超覚寺でも、遠方の御門徒さんへの配信用機材を順次揃えていくと考えております。コロナ禍も落ち着きを見せていますが、**皆が集まるような時期になるまで法事を延期しても大丈夫です。**環境が変化しても、御同朋御同行みんなでお念仏を称えてお勤めするのには必要不変ですか。